

みなさんは、どのようにして 歯科医院を選んでいきますか？

小林 美都子

(千葉県野田市在住、スミミングインストラクター)

最近になってようやく、歯科受診に抵抗がなくなったような気がします。先日も、定期検診の際、衛生士さんが器械で歯を磨いてくれている時に、気持ち良くて眠くなってしまい「大丈夫ですか？」の声に、ハッ！と我に返ったのです。「すみません何か眠くなっちゃって。」と言う私に、「歯科医院で眠くなった人って、聞いたこと無いですよ。」と、複雑な一言が返ってきました。最近の診療台は、すごく寝心地良いのですよね。その上、心地よい音楽も流れています。

こんな風に、今ではとてもリラックスして診療を受ける事が出来る私も、歯の治療といえば思い出す、恥ずかしい場面があります。もう二十数年も前の話になりますが、治療台の上で固まっていた私の緊張を、ほぐそうとしてくれたのか、単に興味があっただけかは分かりませんが、大きく口を開けた状態の私に、ドクターが私の仕事の内容について質問をされたのです。当時OLに成り立てで、張り切っていた私は、思わず質問に即答してしまったのです。「痛い！」ドクターの大きな声。なんと私は、ドクターの手を噛んでしまったのです。「長年、歯医者をやっているが、患者に手を噛まれたのは初めてだ！」と続けるドクターに（長年って言っても、ドクター、まだ若いじゃない？）と、思いながらも「ごめんなさい」と、謝ったのでした。歯医者の皆さん、患者さんの口の中に手を入れている時の質問は要注意ですよ。

その後、結婚した私は、今までに主人の転勤などで、5回の転居をしています。そのたびにいくつも、変更せざるをえない事柄がありますが、その一つに、新しい歯科医院を探す苦労があります。

これまでの5回の転居は、いつも全く離れた場所でした。香川、東京、埼玉、福岡、千葉。そのたびに、お世話になるクリニックをどのようにして選択していたか、その際にどんな事を重視していたかということ、最初に行く時は、たいてい虫歯が痛かったりするので、あまり考えている余裕はないのでまず、「家から近いこと」があげられます。次に、知り合った人の「あの歯医者さんは上手よ。」というお勧めです。その際の上手というのは何を基準にしているのか、人それぞれ違うのでしょうか、納得のいく治療を受けられたということだと思ふのです。例えば、「歯の痛みが無くなった」、「口の中の違和感がなくなった」、「治療の時あまり痛く無く苦痛で無かった」、「質問に対して分かりやすく説明してもらえた」、「治療費があまり高額でなかった」というようなことではないでしょうか？

以前、転居先で、普通の虫歯の治療を受けただけだったのですが、毎回の治療費の他に主人の会社の健康保険に、とても高額な請求が来て「奥さんは、どんな大変な歯の治療をされたのですか？」と聞かれたとかで、新しいクリニックを探す羽目になったことがありました。そして、できることならば、治療に関しては、同じドクターが最後までやってくださること。これもある日、突然歯が痛くなり近くのクリニックで診ていただいたのですが、毎回、治療の度にドクターが替わり、必ず同じ質問をされて、こちらも同じ説明をしてから治療していただくということがありました。

結局その時は、10日間痛みが取れずに、寝不足で苦しんだあげく、幸い現在の住まいが十数年前から治療をしていただいていた（その間、何年か転居のためのブランクがありますが深井ドクターのクリニックまで、車で四十分位という距離だったので、痛みをこらえながら数年ぶりに駆け込んで、診ていただいたのです。以前の通り頼もしいドクターが（体型は少し変わっていましたが）、

十数年前からの私のカルテを見ながら、「原因は多分、この歯ですね。」と言って、すぐに治療をしてくださったのです。とたんに、何日も続いた痛みが、嘘のように無くなり、痛みの涙が、感激の涙に変わりました。

それ以来、少し遠いのですが、三ヶ月に一度の定期検診を欠かさず受診しています。

その時の経験から私の様に、やむを得ず同じクリニックに行けなくなる時、「いつ頃どんな治療をしたかがわかる今までのカルテを、次の処に持って行ける様になるとよいなあ」と、思ったりもしています。



歯科医院で、悲しかったこと、 うれしかったこと

長谷川 共 子 (埼玉県三郷市在住、主婦)

もう20数年前のことですが、当時2歳の息子を連れて歯医者さんに行ったところ、「子連れの人には診察出来ません」と断られました。主人の転勤先で知り合いもお友達もいなくて不安に過ごしていた時期でしたので、それはそれは、歯の痛みよりも受けた心のショックの大きかったことは、いま思い出しても悲しくなります。そしてある時、ひどくなってしまったむし歯の治療に医院に行った時の事です。口を開けるなり「なんだこの歯は—よくもこんなになるまで……ブツブツ」と強い

口調での罵詈雑言。恥ずかしくて逃げ帰ったこともありましたが（たしかに悪いのは私です、でもでも子供が小さいと自由がないのに一）。いつの間にか私は歯医者さんに行きたくない—行く事が恐ろしい—と思うようになっていたのです。でも不幸にして弱い歯の持ち主のようでひどくなるばかり、食事は苦痛です、お友達とおしゃべりや食事をする気にもなりません、笑う事も嫌でした、暗い心でいました。

そんな頃に深井先生の医院へ通院中の友達に薦められて治療をお願いしに行ったのです。怖くなかったのは初めてでした、感激でした。治療するには医師と患者双方の力が必要な事とお話や現実逃避タイプの私にはちとつらい部分でもあるのですが現状や治療についての詳しい説明をして下さり、そしてスタッフの方々が一生懸命歯をきれいにして下さい、申し訳ない気持ちで一杯なのにいつも笑顔で迎えて下さるのです。もう歯を汚したくない—という気持ちが日に日に強くなり、とうとう禁煙のはこびとなりました。

スタッフの皆様のおかげで食事がおいしくこれからはもう少し生きてゆく自信が生まれ、感謝の気持ちで一杯なのです。先生のネパールでのご活動を知った時には、遠い国の知らない人々ですが多くの方が健康になって、もしかしたら人生観も変わって喜びを感じている人がどんどん増えているようで、何もお手伝いするすべもない自分でもながらもワクワクするのです。今、日本の中でもハンデイのある人・介護が必要な人・介護をしている人・他にもたくさんの方が治療したくてもできない人々がどこかにきついていることと思います。元気な私がポーっと生きていていいのかな—と考えるこの頃です。